

登録コード	F3A53030	開講年度	2026				
授業科目	先進繊維・感性工学実験実習				担当教員	児山 祥平 他	
英文授業名	Experiments and Practical Exercises in Advanced Textile Engineering & Kansei Engineering				副担当	ZHU CHUNHONG・奥村 航・KIM KYOUNGOK・田中 稔久・長尾 幸郎	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・3時限	火曜・4時限	対象学生
講義室	繊維3 2 番講義室 繊維共通ゼミ物理実験1		授業形態	実験	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 4 Fカリ・先進感性						
	【2023年度以降カリキュラム対象】繊維関連製品群の設計と計測・評価のプロセスを理解する能力				繊維関連製品群の設計と計測・評価のプロセスを理解する能力		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	編成されたグループで、個別に又は合同で、先進繊維工学および感性工学に関する実験・実習に取り組む。また、取り組んだ内容および得られた結果についてレポート・成果物（発表資料など）を作成・提出し、担当教員の指導を受ける。						
(5)授業計画	この授業は1コマ100分で実施する。 ・「繊維物・繊維機」「編物・編機」等の繊維工学における設計・計測・評価のプロセスに関する実験・実習 [担当：児山・朱・奥村] ・「デザイン」に関する基礎実習、設計過程実習、コンセプト・ストーリー実習など [担当：田中・金晃屋・長尾] 日程・詳細に関しては、初回のガイダンスにて説明する。						
(6)成績評価の方法	実験・実習に関する提出されたレポート・成果物等により評価する。期末試験は実施しない。単位が認定されるためには、全ての実験・実習に出席し、かつレポートで合格すること、成果物の提出や発表が条件となる。遅刻は減点対象、レポート・成果物の未提出（遅延も含む）は不可とする。						
(7)成績評価の基準	合格水準にある： 全テーマの目的を理解し、実験・実習を実施し、その結果をレポート・成果物にまとめること。 やや上にある： 全テーマの目的を理解し、実験・実習を実施し、その結果をレポート・成果物の作成要点に満たした提出物にまとめること。 かなり上にある： 全テーマの目的を理解し、実験・実習を実施し、その結果をレポート・成果物の作成要点に満たした提出物にまとめ、考察できること。 卓越している： 全テーマの目的を理解し、実験・実習を実施し、その結果をレポート・成果物の作成要点に満たした提出物にまとめ、論理的に考察できること。						
(8)事前事後学習の内容	各テーマに関する説明書を授業前に予習し、実験・実習の概要について理解しておくこと。 また、この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、最低でも30時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	・全日程に出席すること。 ・遅刻しないこと。 ・実験実習は講義のように全ての内容を板書するわけではないため、口頭での説明を聞き逃さないこと。 ・ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な操作方を事前に習得しておくこと。 ・返却されたレポートが再提出の場合、指定日までに再提出すること。 ・テーマによるが、汚れても良い服装であること。 ・テーマによるが、筆記用具、パソコン、スケッチブック、カッター等の備品が必要な場合がある。 ・テーマによるが、eALPSにより周知する場合がある。						
(10)質問、相談への対応	授業に関する質問・相談は、基本的に授業中あるいは授業終了後に各担当教員が対応する。 また、メールによる相談も受け付ける。担当教員のアドレスは下記の通り。 田中：tanakat@ 児山：shouhei@ 朱：zhu@ 奥村：wokumura@ 金晃屋：kimko@ 長尾：y_nagao@ (@の後は、shinshu-u.ac.jp)						

(11)学生へのメッセージ	いずれのテーマも、先進繊維工学や感性工学を学ぶ上で不可欠な内容なので、積極的な姿勢で取り組むこと。
(12)その他	特になし。
【教科書】	指定しない。 (各テーマによるが、説明書・テキストを配布する場合がある)
【参考書】	指定しない。